

会社説明会資料



2009年2月27日

 **三光産業株式会社**
SANKO SANGYO CO.,LTD.

(証券コード:7922)

目次



- 会社概要 3～13
 - 4. プロフィール
 - 5. 当社の売上構成
 - 当社の製品紹介
 - 6. ①AV機器関連製品(DVDレコーダー)
 - 7. ②AV機器関連製品(デジカメ)
 - 8. ③AV機器関連製品(ビデオカメラ)
 - 9. ④OA機器関連製品(携帯電話)
 - 10. 生産拠点
 - 11. 当社の強み
 - 12. 業績推移
 - 13. 業種別売上高の推移
- 2008年3月期 第3四半期決算報告 14～18
 - 15. 第3四半期決算概要
 - 16. 1～3Qトピックスと通期計画について
 - 17. 四半期業績推移
 - 18. 四半期貸借対照表
- 今後の展開 19～26
 - 20. 事業環境
 - 21. タッチパネルビジネスの萌芽
 - 22. 中国展開の現状
 - 23. 中国展開の今後の施策
 - 24. 新市場は医療向けが前進
 - 25. 中期数値目標
 - 26. 配当について

会社概要

プロフィール



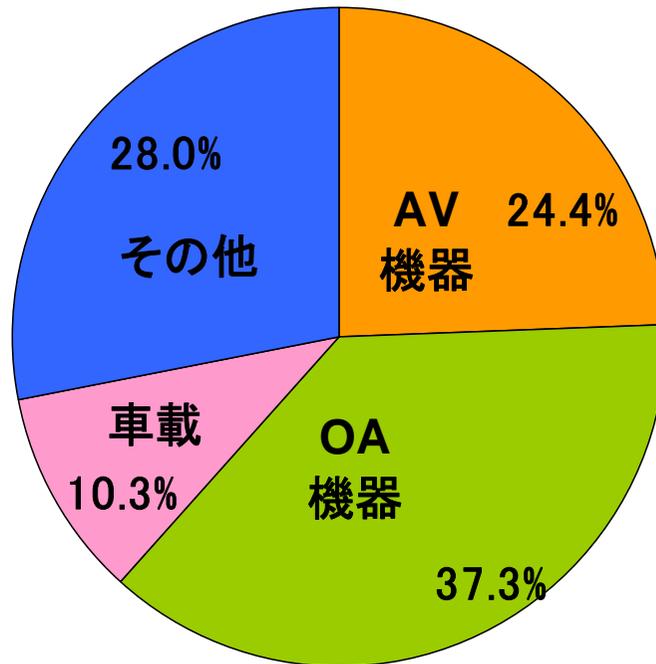
- 商号 三光産業株式会社
- 本社 東京都渋谷区神宮前3-42-6
- 代表者 代表取締役社長 山原 剛之
- 設立 1960年4月1日
- 事業内容 接着剤付ラベル・ステッカーの製造販売
- 資本金 18億5,075万円(2008年9月末)
- 関係会社 三光プリンティング株式会社
サンコウサンギョウ(マレーシア)
光華産業有限公司(香港)
燦光電子(深圳、光華産業の子会社)
- 従業員数 258名(単体)、753名(連結)(2008年9月末)

当社の売上構成

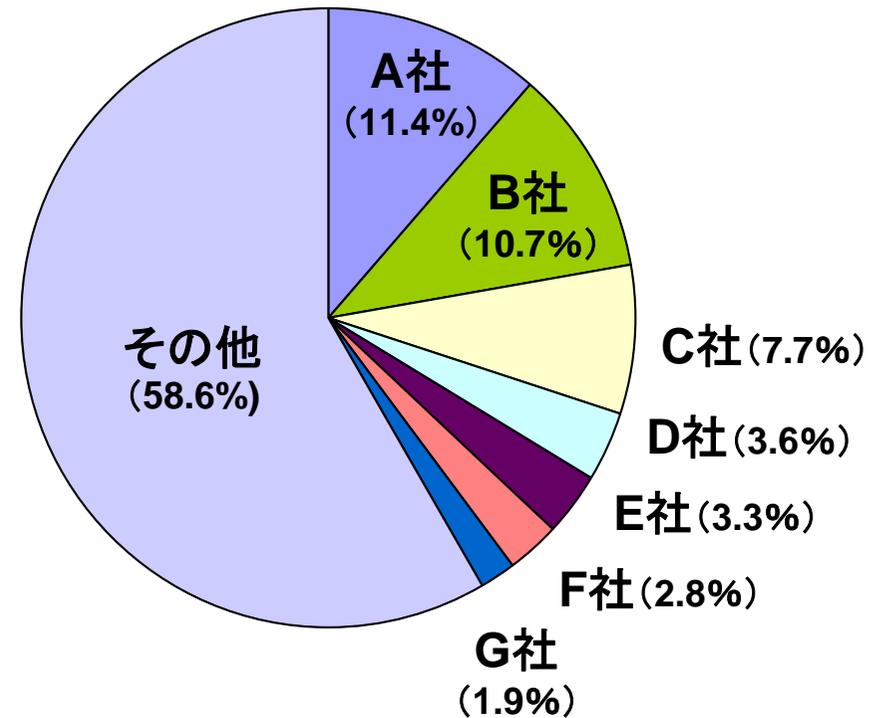


2008年3月期

業種別売上構成(連結)



顧客別売上構成(単独)



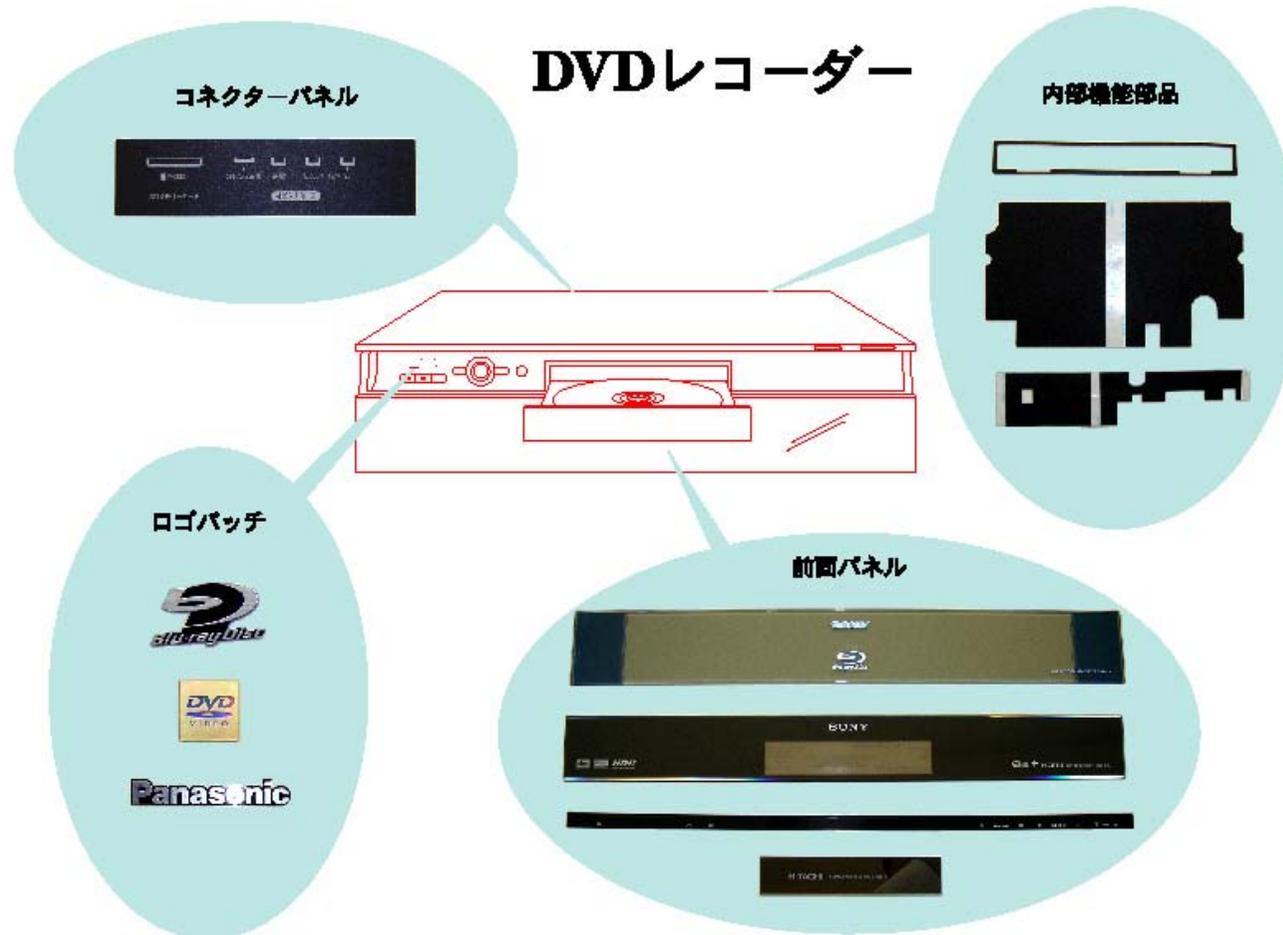
NEC TDK 三洋電機 ソニー 大日本印刷 パナソニック
日立製作所 富士ゼロックス 富士フイルム 三菱電機等
約1000社(敬称略) (五十音順)

当社の製品の紹介①



DVDレコーダー向け部品

AV機器製品



当社の製品の紹介②



デジタルカメラ向け部品

AV機器製品

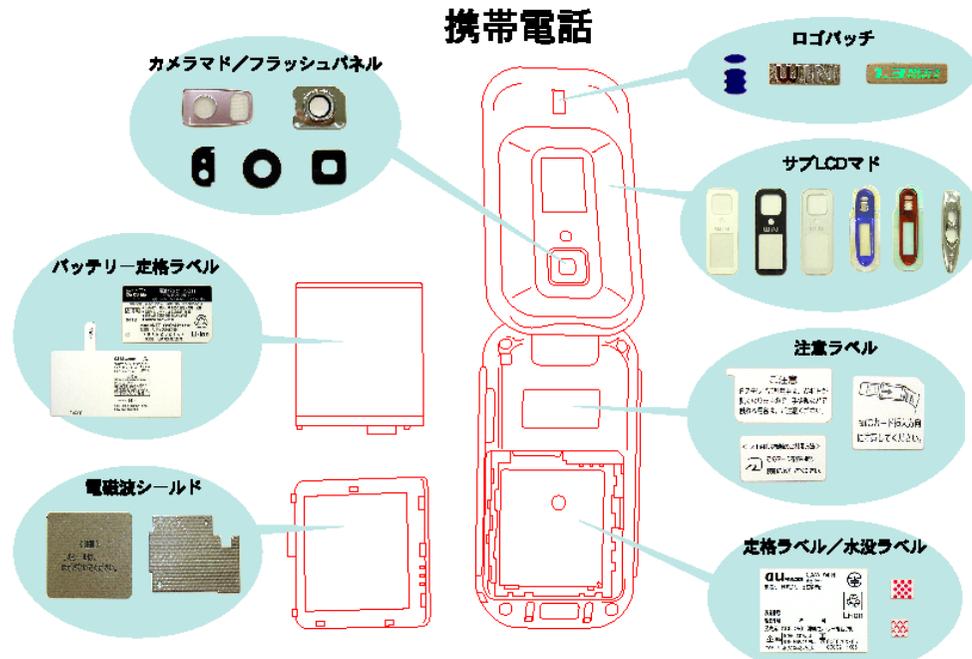


当社の製品の紹介③



携帯電話機向け部品

OA機器製品



当社の製品の紹介④



電池シール・広告関連(その他)



生産拠点



平成20年3月期 単位:百万円

	印刷方式	建物面積	生産実績
方南工場	シール主体	1,211 m ²	364
千曲川工場	輪転機主体	2,406	523
川越工場	オフセット主体	4,578	1,183
大阪工場	シール・シルク主体	(948)	1,038
マレーシア	シール・シルク・輪転機主体	2,986	654
中国深圳	シール・シルク・輪転機主体	2,200	1,333
三光 プリンティング	シール主体	611	327

()は賃借物件

当社の強み



1. 大手電機メーカーグループとの取引が中心
2. 顧客の様々な要望に対応する体制
 - ①. 幅広い印刷方式・加工技術を装備
 - ②. 外注を使うコーディネーション力
 - ③. 積極的な中国展開

約4万種類の製品

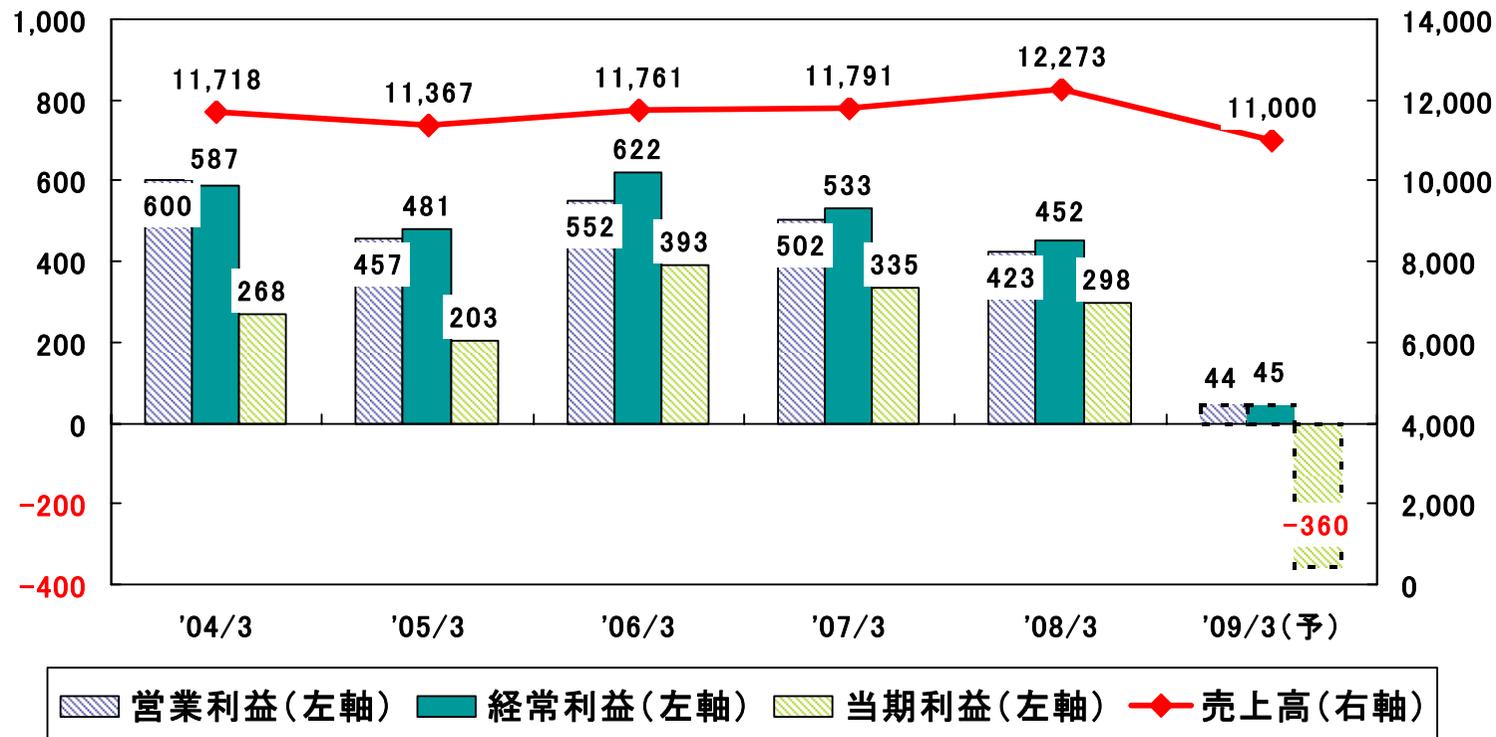
1,000を超える取引社数

業績推移



- 売上が横ばい圏での推移が続く中で、合理化を推進。比較的安定した利益水準を維持してきているものの、価格ダウン傾向が続き、07/3期、08/3期と2期連続減益となった
- 今09/3期は世界的な景気後退を受け、主力ユーザーである大手家電メーカーは軒並み大幅な減産体制。携帯電話メーカーの撤退もあり、05/3期以来の減収、3期連続減益予想

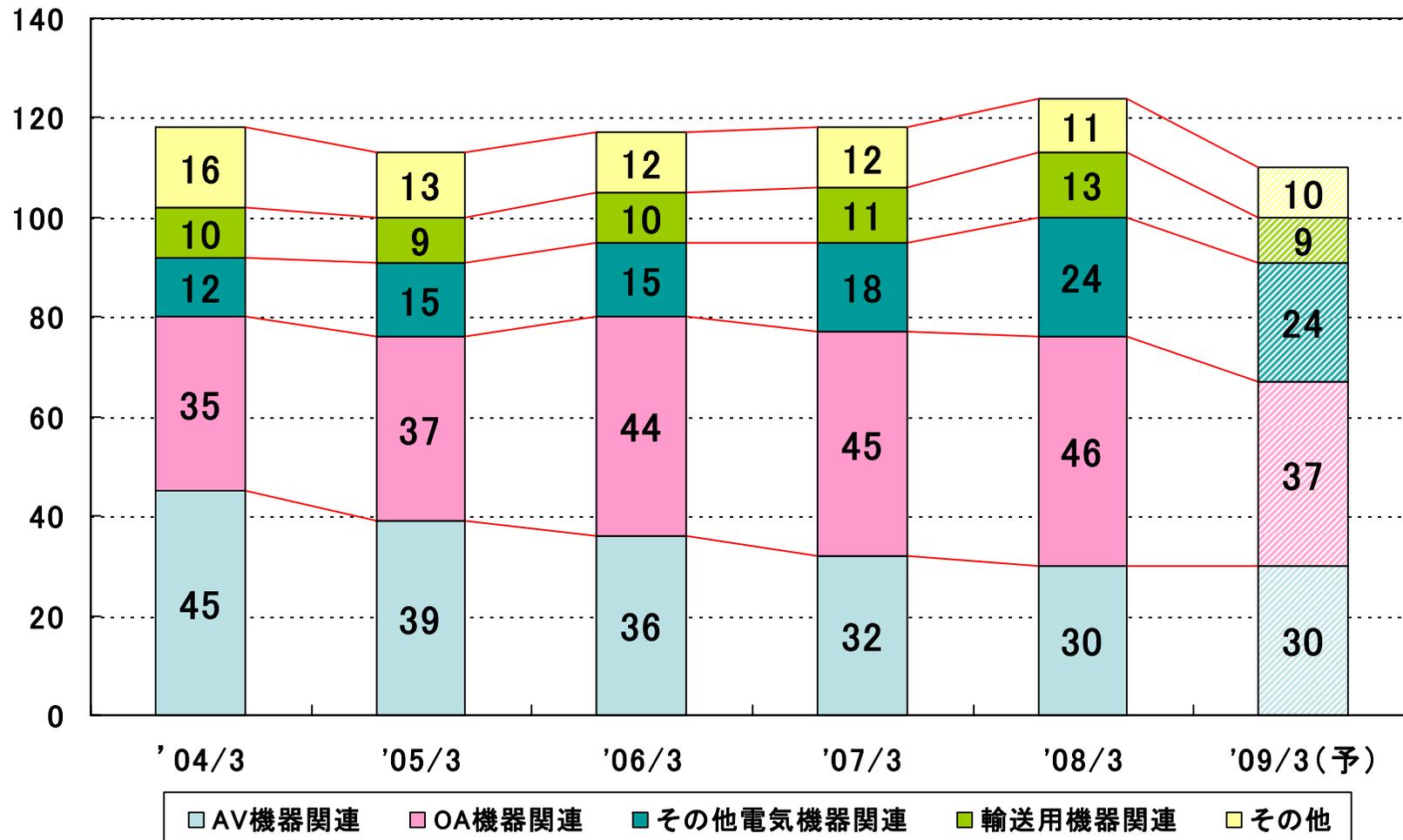
業績推移(百万円)



業種別売上高の推移



単位: 億円



2009年3月期
第3四半期決算報告

第3四半期決算概要



単位:百万円, %

	08/3期 1~3Q累計		09/3期 1~3Q累計			09/3 通期計画		
	金額	構成比	金額	伸長率	構成比	金額	伸長率	構成比
売上高	9,244	100.0	8,278	▲10.5	100.0	11,000	▲10.4	100.0
AV機器	(2,208)	(23.9)	(2,321)	(5.5)	(28.0)	(3,000)	(26.0)	(27.3)
OA機器	(3,745)	(40.5)	(2,726)	(▲27.2)	(32.9)	(3,700)	(▲19.2)	(33.6)
その他電子機器関連	(1,614)	(17.5)	(1,798)	(11.4)	(21.7)	(2,400)	(1.4)	(21.8)
その他	(1,675)	(18.1)	(1,429)	(▲14.7)	(17.3)	(1,900)	(▲18.6)	(17.3)
売上総利益	1,846	20.0	1,515	▲17.9	18.3	2,010	▲15.2	18.3
営業利益	428	4.7	33	▲92.3	0.4	44	▲89.6	0.4
経常利益	464	5.1	35	▲92.5	0.4	45	▲90.1	0.4
(当期)純利益	278	3.1	▲329	—	▲4.0	▲360	—	▲3.3

1～3Qトピックスと通期計画について



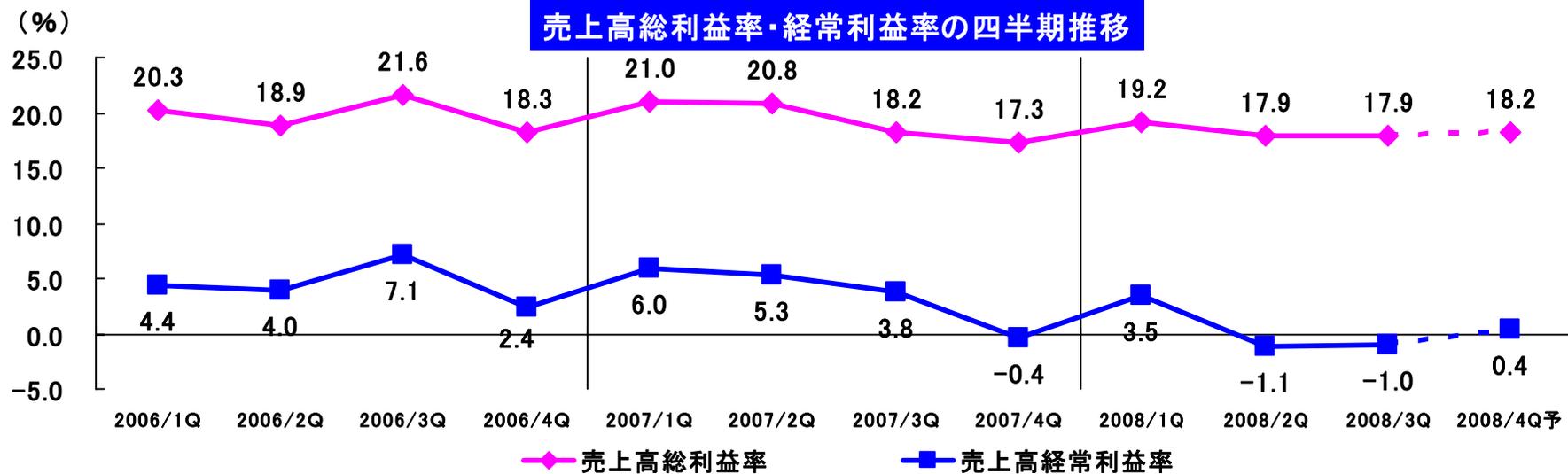
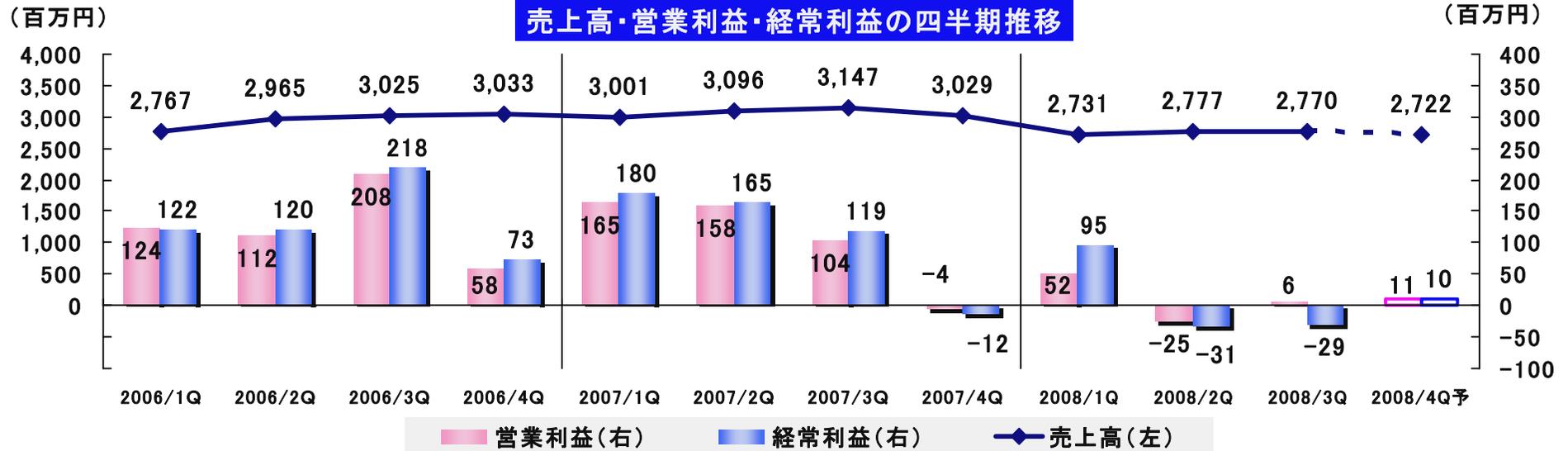
1～3Q決算のポイント

1. 景気悪化により、受注環境は下半期に入って急速に悪化。また近年当社収益を支えてきた携帯電話部品が一転、複数メーカーの事業撤退の影響が▲5億円の減収要因となり、全体で10%超の減収となった
2. 利益面では、①国内自社工場の操業度低下、②原材料価格の上昇、③顧客からの売価ダウン要請、等により原価率が1.7ポイント上昇。販管費の増加、営業外では為替差損の発生もあり、営業、経常とも大幅減益
3. 2008年6月の深圳市の水害による設備・棚卸資産の損失(25百万円)、繰延税金資産の取崩しによる法人税等調整額(281百万円)により、最終損失を計上

通期計画について

1. 4Qに関しては、外部環境は一段と厳しさを増すものと想定されるが、一層の営業強化とコストダウンを推進し、営業・経常段階での黒字確保を目指す
2. 携帯電話やデジタルカメラ向けのタッチパネル関連製品の出荷が本格化。来期には大きく収益寄与することで、苦戦が予想されるその他用途向けをカバー。今期をボトムに収益回復の見込み

四半期業績推移



四半期貸借対照表



	08/3 第3四半期末	08/3 期末	09/ 第3四半期末
流動資産	(8, 640)	(8, 508)	(8, 081)
現金及び預金	3, 456	3, 433	3, 412
売上債権	4, 112	4, 065	3, 499
棚卸資産	875	833	888
その他流動資産	197	177	282
固定資産	(6, 437)	(6, 417)	(5, 985)
資産合計	(15, 077)	(14, 925)	(14, 067)
流動負債	(2, 812)	(2, 701)	(2, 532)
買入債務	2, 392	2, 124	1, 940
その他流動負債	420	577	592
固定負債	(364)	(357)	(359)
退職給付引当金	170	176	180
その他固定負債	193	181	179
負債合計	(3, 176)	(3, 058)	(2, 892)
株主資本	(11, 551)	(11, 571)	(11, 143)
評価・換算差額等	(43)	(▲13)	(▲248)
少数株主持分	(305)	(308)	(279)
純資産合計	(11, 901)	(11, 866)	(11, 175)
負債純資産合計	(15, 077)	(14, 925)	(14, 067)

単位:百万円

今後の展開

事業環境



顧客動向と当社への影響と対応

長期トレンド

- ① 製品ライフサイクルの短期化・低価格化
- ② 部材の現地調達加速
- ③ 高級機種・高付加価値品にも海外シフトの動き(デジカメ・カーナビ・液晶TV・・・)



燦光電子の稼働など、中国での生産能力増強を図る一方、国内においては、コストダウンとともに、技術力の高い外注先の確保と弾力的な活用を推進

最近の動き

- ① 大手家電や自動車メーカーが、国内外拠点で軒並み大幅減産に踏み切り
- ② 携帯電話の販売方法の変更による出荷台数の減少



生産体制は自社・外注、国内・海外を問わず、長期的見地に立って、再編の可能性まで踏み込み見直しを行なう

携帯電話向け部品については、足元苦戦を強いられているが、i-phone型携帯の普及に伴う、タッチパネル関連製品の売上増が見込まれる。

タッチパネルビジネスの萌芽



携帯電話市場

- i-phone式携帯の新機種向けにタッチパネル用外装部品(フィルムコンタクト)の出荷が決定。今春より量産、当初月産20万台程度となり、年間10億円以上の売上を見込む
- さらに、付属のガラスやアクリル窓の受注獲得に向けて提案活動を継続するほか、保護シートの新規引き合いなど、様々なニーズが顕在化

デジタルカメラ市場

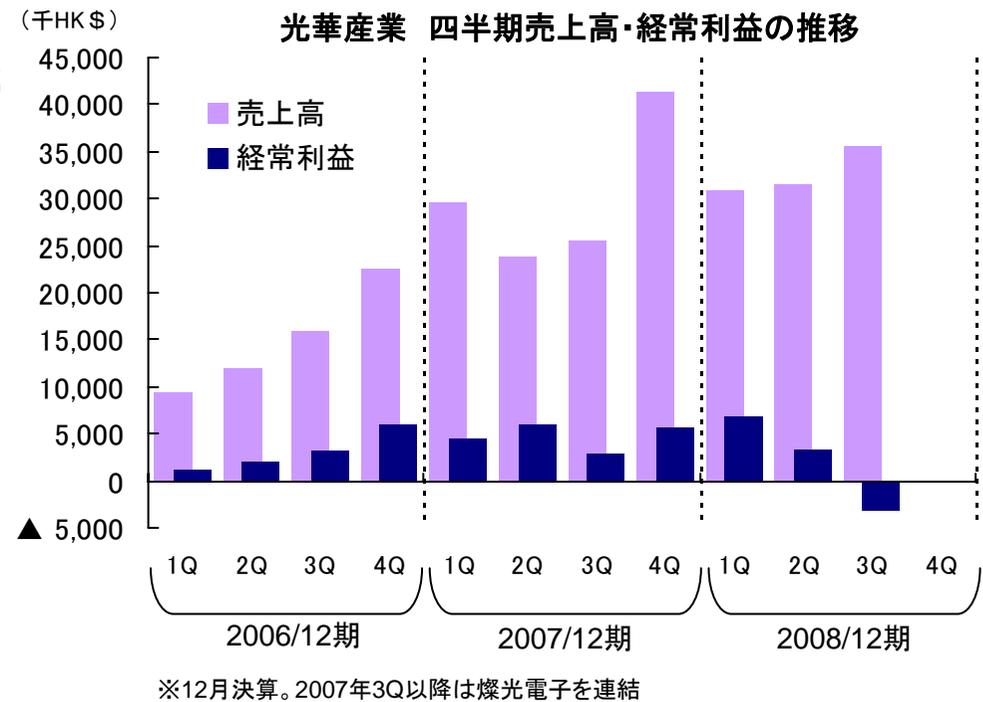
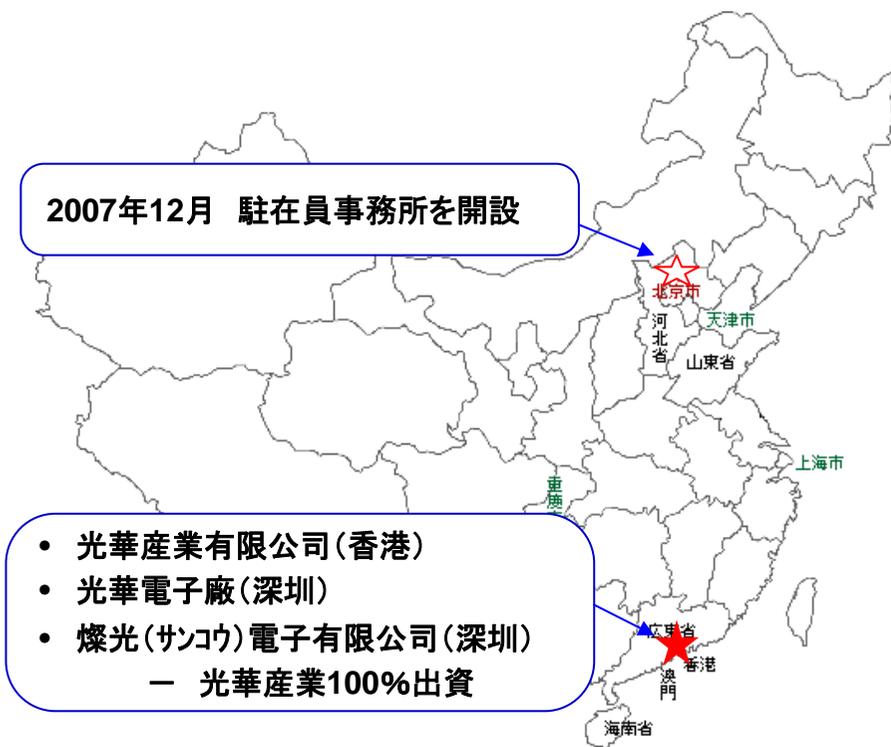
- 大手メーカー向けにタッチパネル式デジカメ用の特殊高品質ガラス加工の受注交渉が大詰め。今夏より出荷見込みで、年間5~6億円程度の売上寄与を期待



中国展開の現状



- セットメーカーの海外生産シフトへ対応するため生産能力を増強。2007年8月には、光華産業の子会社として設立した燦光電子工場が操業。携帯電話部品やアクリル製品にも対応
- 2008年10月(4Q)以降、受注量の減少が顕著。現状大幅な売価ダウンはないが、今後さらなる協力要請の可能性も想定される

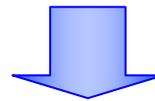


中国展開の今後の施策



■ 燦光電子を中国での積極展開のための製造拠点として位置づけ

- ① 生産能力の倍増
- ② 対応製品の増加・・・携帯電話部品、アクリル製品等
→国内メーカーの海外移転による受注の機会損失へ対応



- 昨年後半より急激に需要が減少しているものの、中国市場の長期的な位置づけは不変。3月以降も状況を見極める必要があるが、攻めの姿勢は崩さず
- これまで生産能力が追いつかず断ってきた小規模案件に対する営業強化で、受注の盛り返しを図る
- 拠点展開を検討している上海・蘇州については、長期戦略としての計画は維持するものの当面は凍結

新市場は医療向けが前進



- オリジナル企画・機能を組み込んだ高付加価値商品の投入により、少子化・中国製 品の増加で縮小傾向のアミューズメント・玩具景品分野の拡販を図るが、現状目を見 張る成果が上がっていない状況

- 一方で、新たに医療分野において、医療関係の検査ラベル等を納入。今後の市場拡大を期待

中期数値目標



従来目標
(2007/3期～)

2010/3期に向けて、

- ① 売上高 年率3%成長
- ② 営業利益率 5%確保 を目指す

進捗状況

中国での生産能力増強など持続的成長への布石が整い、2008/3期3Qまで目標実現に向け順調に推移したものの、以降環境は激変。今後も先行き不透明感強く、①中国展開、②成型品の拡大、③国内新市場の開拓、という基本戦略の取り組みと成果を見込んでも、来期において上記利益率の達成は困難

早期の収益安定に取り組み、中期目標についても見直しを行なう

修正目標
(2010/3期～)

2012/3期に向けて、

- ① 売上高 基本戦略を着実に実行し年率3%成長に再チャレンジ
- ② 利益目標については、当面ローコスト体質の構築に取り組み進捗状況を評価したうえで、あらためて設定・公表

配当について



当初予定配当額を修正

当初予想 13円／株 → 今回修正予想 7円／株

当社は、安定配当の維持という基本政策のもと、2004/3期以降年間1株あたり13円配当を継続してまいりました

しかしながら、今期の大幅な業績の悪化と、今後事業環境の厳しさが一段と増すと考えられることなどを鑑み、今期末における配当に関しては、1株あたり7円に変更させていただきます

今後、早期に株主の皆様のご期待に応えられるよう、持続的な成長が可能な企業体質の構築に努めてまいります

本資料に掲載されている三光産業株式会社の現在の計画、見通し、戦略、確信等のうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、リスクや不確実な要因を含んでおります。

これらの情報は、現在入手可能な情報から三光産業株式会社の経営者の判断に基づいて作成されております。

実際の業績は、さまざまな重要な要素により、業績見通しとは大きく異なる結果となりうるため、業績見通しのみで全面的に依拠することは控えるようお願い致します。

また、本資料は、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する決定は、利用者ご自身のご判断において行われるようお願い申し上げます。

IRお問合せ

総務本部 経理部長

高橋 光弘

TEL: 03-3403-8134

E-mail: m-takahashi@sankosangyo.co.jp